もろともに

No.6　令和4年11月1日発行
岩手県立山田高等学校
文責　副校長　木村　総司

11月1日　開校記念日
創立96年 そして 新たな歩みへ

本校の前身である山田町立実科高等女学校は、大正15年4月に産声を上げました。昭和の時代に入り、町立、組合立、そして昭和23年11月1日、岩手県に移管となり、現在の校名である「岩手県立山田高等学校」と改称し、今日に至っています。

〔 主な変遷 〕

1926年（大正15年）４月１日
山田町立実科高等女学校を山田尋常高等小学校に併置開校　修業年限２年　定員80名

1943年（昭和18年）４月１日
山田町立高等女学校と改称　修業年限３年に延長

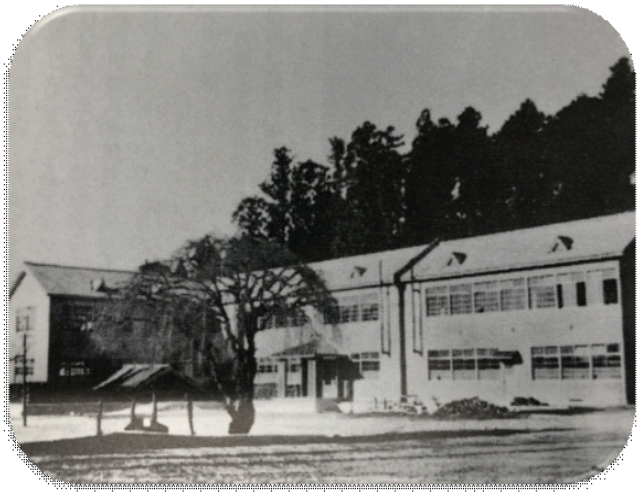
1946年（昭和21年）２月11日
山田町・船越村・織笠村・大沢村・豊間根村組合立山田高等女学校認可となる

1948年（昭和23年）３月19日
山田町外４ケ村組合立岩手県山田高等学校に昇格認可となる

同年４月１日
山田高等学校開校　定員300名

同年５月２日
定時制課程を併置

同年11月１日
岩手県に移管となり岩手県立山田高等学校と改称する



↑創立時の校舎

校　訓

身体を鍛え　勉学に勤しみ
真理を究め　叡智を磨き　豊かな心を養え

「さいかち祭」の由来

10/14(金)、15（土）に「さいかち祭」が開催されました。なぜ文化祭の名称に「さいかち」という植物の名が使われているのでしょうか。。

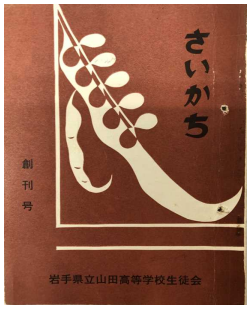
その答えは、昭和31年、関谷に新校舎が完成し、その学び舎への関谷街道沿いにはさいかち並木が続いていました。まさに青春時代の日々は、さいかち並木とともに歩み、並木は青春のシンボルとされ、「さいかち」という言葉が使われ始めたのではないかと推測されます。

また、昭和50年に創立50周年を記念し、これまでの文化祭の名称を「さいかち祭」とし、今日まで脈々と受け継がれています。

↑さいかち並木「山田高等学校五十年史」より

－前略－
昭和31年秋、千古埋没せる処女地は校庭に造成され純たる誇りに満つ。されば**さいかち**並木の小径は出会い触れ合いロマンときめく青春行路、個人団体競技に命溢るる三千の四肢躍動し広場は微笑み緑萌ゆる草枕に天の青さ行く白雲は風を見せ憧れに心驕り方丈の寸土も無限の想像空間となる。
－中略－
たまさかの遊子ここを訪れそぞろ歩けば無常を覚え樹幹の彫痕に思いあり…流離恒なるも尚残れかし、若人達が遠き夢。
関谷校舎跡に建つ碑文より（平成7年建立）

昭和41年4月の生徒総会で可決され、生徒会誌「さいかち」が翌年2月15日に創刊されました。創刊号から10号までの表紙デザインは、「さいかちの実」、その後の号には「さいかち並木」が使われています。



左　創刊号
右　第14号

※今号は、「令和３年度もろともに第８号」を一部改訂し発行しています。